

川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画

第1回策定委員会 資料

平成26年10月

川 西 町

日常生活圏域ニーズ調査について

結果報告書（概要）

平成 26 年 1 0 月

川西町

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査期間と調査方法	1
3.	調査対象及び調査票の配布数と回収数	1
4.	調査項目	1
5.	報告書の見方	1
II	回答者の属性	2
III	評価項目別の結果	3
1	運動器機能、身体機能等	3
(1)	運動器の機能低下のリスク	4
(2)	閉じこもりのリスク	5
(3)	転倒のリスク	6
(4)	低栄養のリスク	7
(5)	口腔ケアのリスク	8
(6)	認知機能低下のリスク	9
(7)	認知機能障害程度（CPS）	10
(8)	うつ病のリスク	13
(9)	虚弱のリスク	14
(10)	二次予防事業対象者	15
2	生活機能	16
(1)	手段的自立度（IADL）	17
(2)	知的能動性	18
(3)	社会的役割	19
(4)	老研式指標総合評価（生活機能総合評価）	20
3	前回調査や全国平均との比較	21
	参考資料 調査票	23

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、地域の高齢者が住みなれた地域でいきいきと暮らせる地域包括ケアシステムの構築を目指して、平成 27 年度から始まる『川西町老人福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画』の基礎資料とするため、高齢者の日常生活の様子、健康状態、介護の状況などについて調査し、身体機能や日常生活、社会参加の状況を分析するとともに、二次予防事業対象者を把握するために実施しました。

2. 調査期間と調査方法

- ・調査期間：平成 26 年 7 月 15 日から平成 26 年 7 月 28 日まで（8 月 15 日まで受付）
- ・調査方法：郵送による配布・回収

3. 調査対象及び調査票の配布数と回収数

調査対象者は、平成 26 年 6 月 1 日現在、町内に居住する 65 歳以上の高齢者で介護認定を受けていない人又は要支援 1 から要介護 2 までの人に対して、実施しました。

対象	配布数	有効回収数	回収率
町内に居住する 65 歳以上の高齢者 （要介護 3 以上の認定者を除く）	2,450 件	1,653 件	67.5%

4. 調査項目

調査項目は、国の調査方針をふまえつつ、川西町・奈良県の独自項目を加え、次の 8 項目について行いました。

- ①家族や生活状況 ②運動・閉じこもり ③転倒 ④口腔・栄養
- ⑤物忘れ ⑥日常生活 ⑦社会参加 ⑧健康

5. 報告書の見方

- 集計結果はすべて、小数点第 2 位を四捨五入しているため、比率（％）の合計が 100％にならないことがあります。
- 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の文言を短縮している場合があります。
- 階層集計の比率（％）は、すべて各階層ごとの該当対象者数を 100％として算出しています。
- 回答比率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出しました。2 つ以上の回答を求める設問では、比率（％）の合計は 100％を超えています。

Ⅱ 回答者の属性

1. 年齢構成

上段：人数（人） 下段：割合（％）

	合計	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	不明
全体	1,653 100.0	470 28.4	489 29.7	300 18.1	228 13.8	114 6.9	45 2.7	7 0.4
男	744 100.0	224 30.1	229 30.8	139 18.7	97 13.0	40 5.4	12 1.6	3 0.4
女	877 100.0	235 26.8	249 28.5	157 17.9	130 14.8	72 8.2	32 3.6	2 0.2
無回答	32 100.0	11 34.3	11 34.4	4 12.5	1 3.1	2 6.3	1 3.1	2 6.3

2. 認定状況

上段：人数（人） 下段：割合（％）

	合計	認定者以外	認定者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	不明
全体	1,653 100.0	1,521 92.0	125 7.6	32 1.9	29 1.8	38 2.3	26 1.6	7 0.4
男	744 100.0	699 94.3	42 5.7	9 1.2	6 0.8	17 2.3	10 1.3	0 0.0
女	877 100.0	797 91.1	78 8.9	21 2.4	22 2.5	20 2.3	15 1.7	0 0.0
無回答	32 100.0	25 83.3	5 16.7	2 6.3	1 3.1	1 3.1	1 3.1	7 0.0

3. 住宅の所有について

上段：人数（人） 下段：割合（％）

	合計	持家	民間 賃貸住宅	公営 賃貸住宅	借間	その他	無回答
全体	1653 100.0	1507 91.1	31 1.9	26 1.6	10 0.6	33 2.0	46 2.8
男	744 100.0	686 92.2	11 1.5	11 1.5	4 0.5	12 1.6	20 2.7
女	877 100.0	797 90.8	18 2.1	15 1.7	6 0.7	20 2.3	21 2.4
無回答	32 100.0	24 75.0	2 6.3	0 0.0	0 0.0	1 3.1	5 15.6

※年齢構成、認定状況での「不明」は、ラベル引き剥がしによる不明。

4. 世帯構成

上段：人数（人） 下段：割合（％）

	合計	一人暮らし	家族など 同居	その他	無回答
全体	1653 100.0	182 11.0	1406 85.1	17 1.0	48 2.9
男	744 100.0	61 8.2	659 88.6	7 0.9	17 2.3
女	877 100.0	114 13.0	728 83.0	10 1.1	25 2.9
無回答	32 100.0	7 21.9	19 59.3	0 0.0	6 18.8

5. 調査票の記入者

上段：人数（人） 下段：割合（％）

	合計	あて名のご 本人が記入	ご家族が記 入	その他	無回答
全体	1653 100.0	1330 80.5	202 12.2	10 0.6	111 6.7
男	744 100.0	621 83.4	83 11.2	2 0.3	38 5.1
女	877 100.0	699 79.8	117 13.3	8 0.9	53 6.0
無回答	32 100.0	10 31.3	2 6.3	0 0.0	20 62.4

Ⅲ 評価項目別の結果

1. 運動器機能、身体機能等

【基本チェックリストによる評価の方法】

ニーズ調査には、特定健康診査等で介護予防事業（二次予防事業）の対象者を把握するための基本チェックリスト項目が含まれています。ここでは基本チェックリストの結果を使って運動器、閉じこもり、転倒、栄養、口腔、認知症、うつ、虚弱に関わるリスクを評価します。

○ 基本チェックリスト

番号	設問	リスクありに該当する選択肢
設問 6-問 1	バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）	「2. できるだけしていない」or「3. できない」
設問 6-問 2	日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」
設問 6-問 5	預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」
設問 7-問 5	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
設問 7-問 6	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」
設問 2-問 1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. いいえ」
設問 2-問 2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. いいえ」
設問 2-問 3	15分位続けて歩いていますか	「2. いいえ」
設問 3-問 1	この1年間に転んだことがありますか	「1. はい」
設問 3-問 2	転倒に対する不安は大きいですか	「1. はい」
設問 4-問 1	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
設問 4-問 2	身長（ ）cm、体重（ ）kg	BMI<18.5
設問 4-問 3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
設問 4-問 4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
設問 4-問 5	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
設問 2-問 5	週に1回以上は外出していますか	「2. いいえ」
設問 2-問 6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. はい」
設問 5-問 1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	「1. はい」
設問 5-問 2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
設問 5-問 3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
設問 8-問 9	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
設問 8-問 10	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
設問 8-問 11	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
設問 8-問 12	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
設問 8-問 13	（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

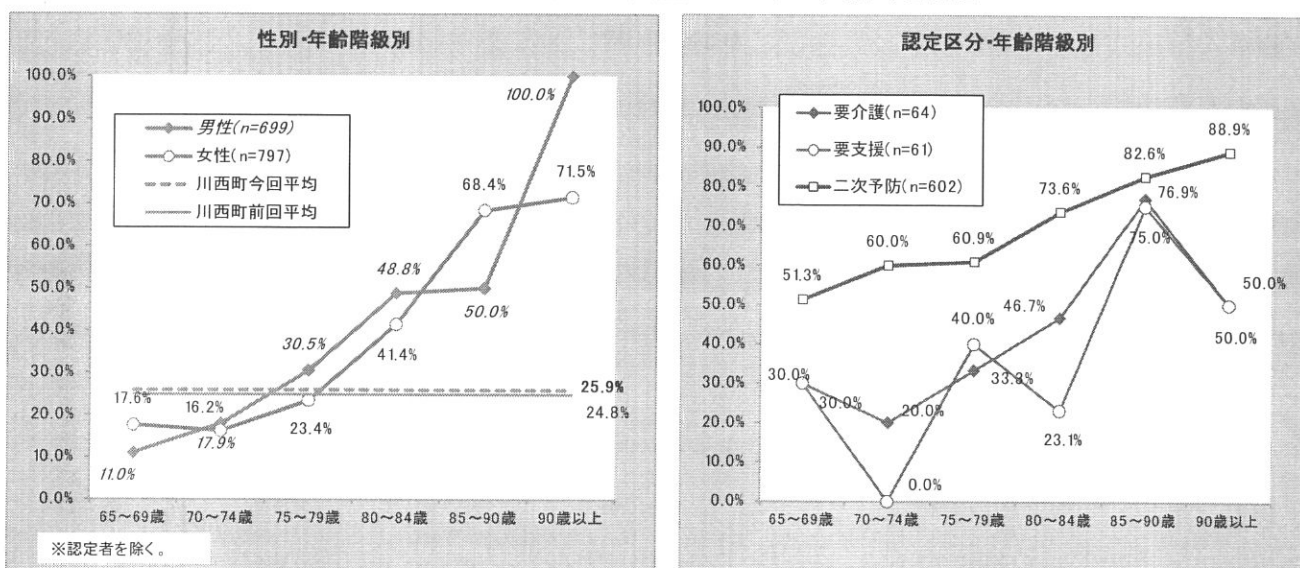
(1) 運動器の機能低下のリスク

基本チェックリストに基づく運動器の評価結果をみると、全体（1,521 人中）で 25.9%（394 人）が「運動器の機能低下のリスク該当者」となっており、前回調査の 24.8%より 1.1 ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、女性の 65～69 歳を除いて、男女ともおおむね年齢が上がるにつれて運動器の機能低下のリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者では年齢が上がるにつれて運動器の機能低下のリスク該当者の割合が高くなっています。

図表 運動器の機能低下のリスク該当者割合



評価方法

下記の 5 項目について、3 項目以上該当する場合、「運動器の機能低下のリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 2-問 1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（該当：いいえ）
設問 2-問 2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（該当：いいえ）
設問 2-問 3	15 分位続けて歩いていますか（該当：いいえ）
設問 3-問 1	この 1 年間に転んだことがありますか（該当：はい）
設問 3-問 2	転倒に対する不安は大きいですか（該当：はい）

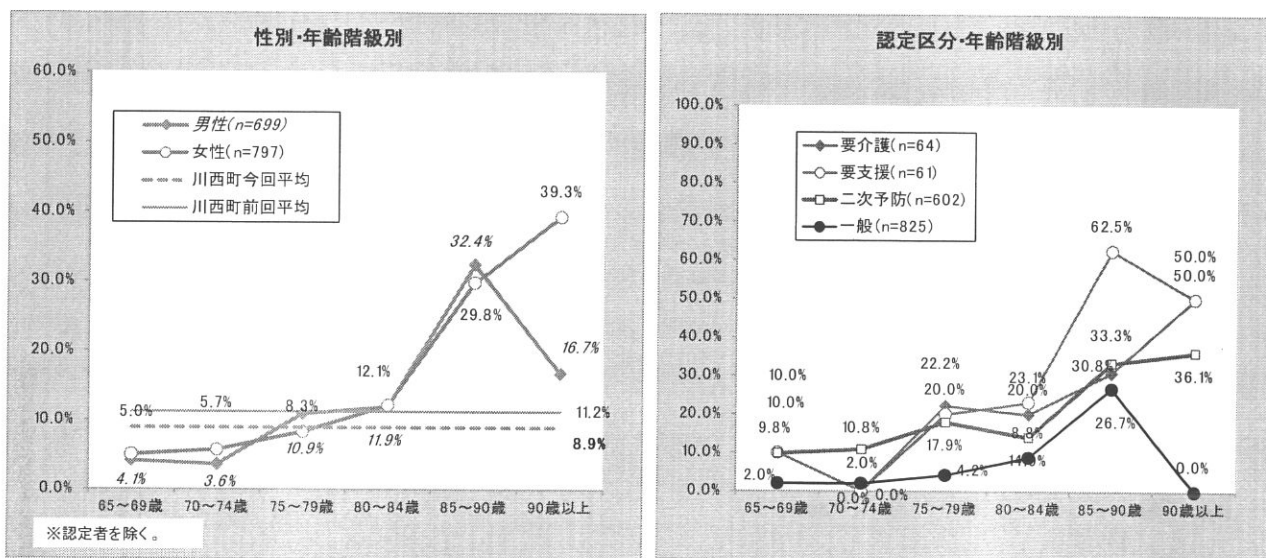
(2) 閉じこもりのリスク

基本チェックリストに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体（1,521 人中）で 8.9%（135 人）が「閉じこもりのリスク該当者」となっており、前回調査の 11.2%より 2.3 ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、男性の 70～74 歳と 90 歳以上を除いて、男女ともおおむね年齢が上がるにつれて閉じこもりのリスク該当者割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、70～74 歳と 80～84 歳を除いて、非認定者より認定者のほうが閉じこもりのリスク該当者割合が高くなっています。

図表 閉じこもりのリスク該当者割合



評価方法

下記の項目について、「いいえ」と回答した場合、「閉じこもりのリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
問 11-E	週に 1 回以上は外出していますか（該当：いいえ）

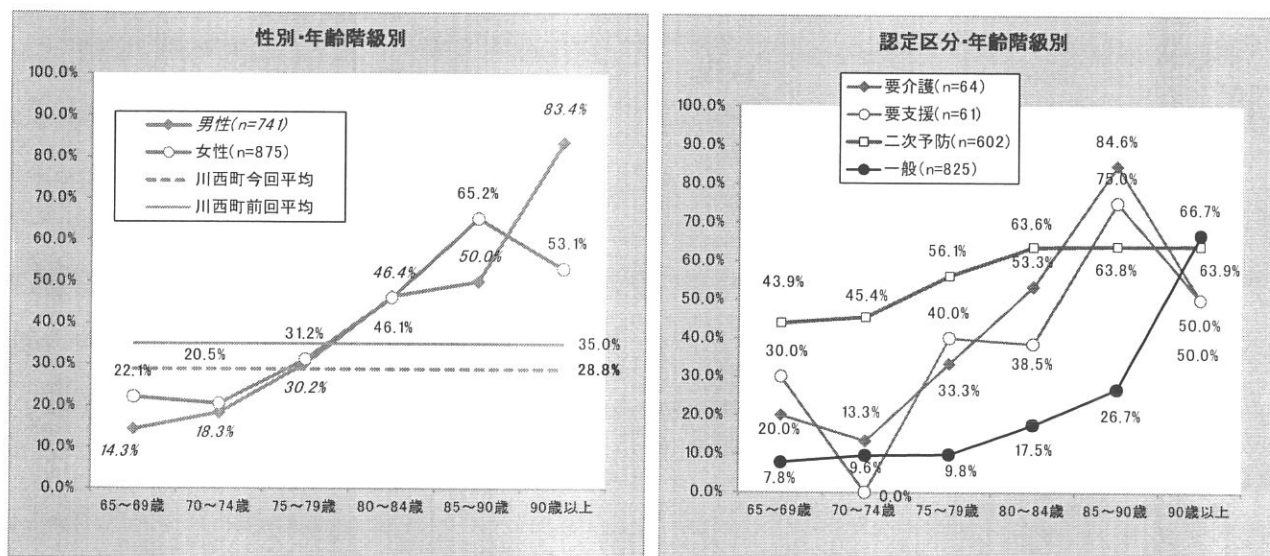
(3) 転倒のリスク

転倒リスクに関する設問の回答で6点以上を「リスクあり」と評価すると、全体（1,646人中）で28.8%（474人）が「転倒のリスク該当者」となっており、前回調査の35.0%より6.2ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、女性の65～64歳と90歳以上を除いて、男女ともおおむね年齢が上がるにつれて転倒のリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者と一般高齢者では年齢が上がるほど転倒のリスク該当者の割合が高くなっています。

図表 転倒のリスク該当者割合



評価方法

下記の5項目について、合計点数が6点以上の場合、「転倒のリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 3-問 1	この1年間に転んだことがありますか（はい：5点 いいえ：0点）
設問 3-問 3	背中が丸くなってきましたか（はい：2点 いいえ：0点）
設問 3-問 4	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか（はい：2点 いいえ：0点）
設問 3-問 5	杖を使っていますか（はい：2点 いいえ：0点）
設問 8-問 3	現在、何種類の薬を飲んでいますか（5種類以上：2点、その他の回答：0点）

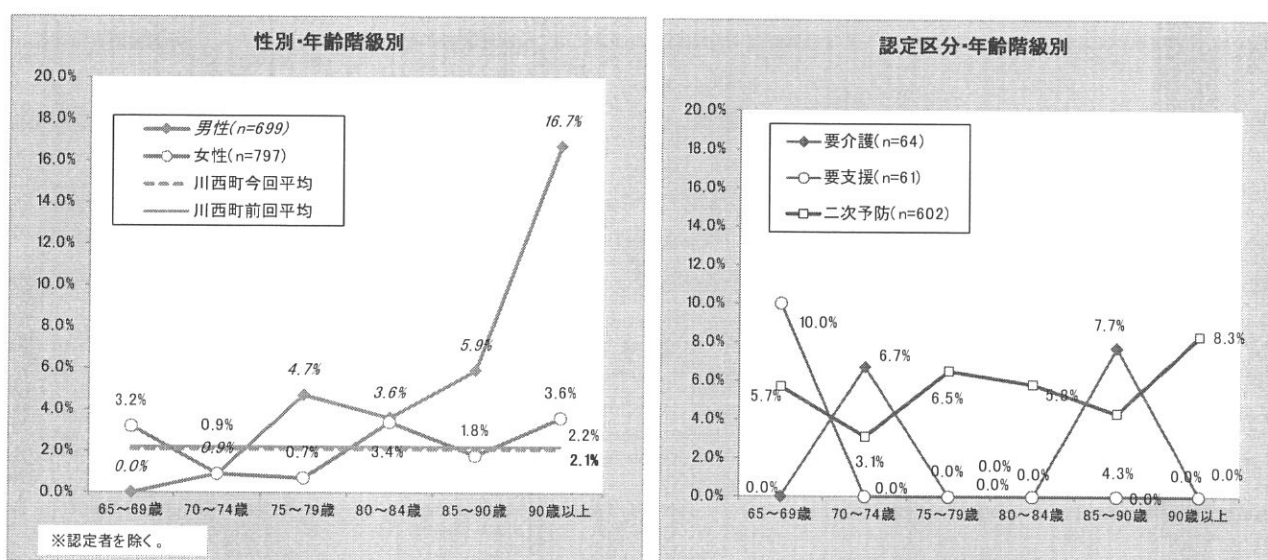
(4) 低栄養のリスク

基本チェックリストに基づく栄養改善の評価結果をみると、全体（1,521 人中）で 2.1%（32 人）が「低栄養のリスク該当者」となっており、前回調査の 2.2%より 0.1 ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、65～74 歳を除いて、女性より男性のほうが低栄養のリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者に占める低栄養のリスク該当者の割合は 5.3%であり、前回調査の 5.7%より 0.4 ポイント減少しています。

図表 低栄養のリスク該当者割合



評価方法

下記の 2 項目について、全て該当する場合、「低栄養のリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 4-問 1	6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか（該当：はい）
設問 4-問 2	身長・体重 BMI（該当：18.5 未満）

※BMI の求め方と判定基準

BMI＝体重（kg）÷身長（m）²

やせ	BMI 値	18.5 未満
標準	BMI 値	18.5 以上 25 未満
肥満	BMI 値	25 以上

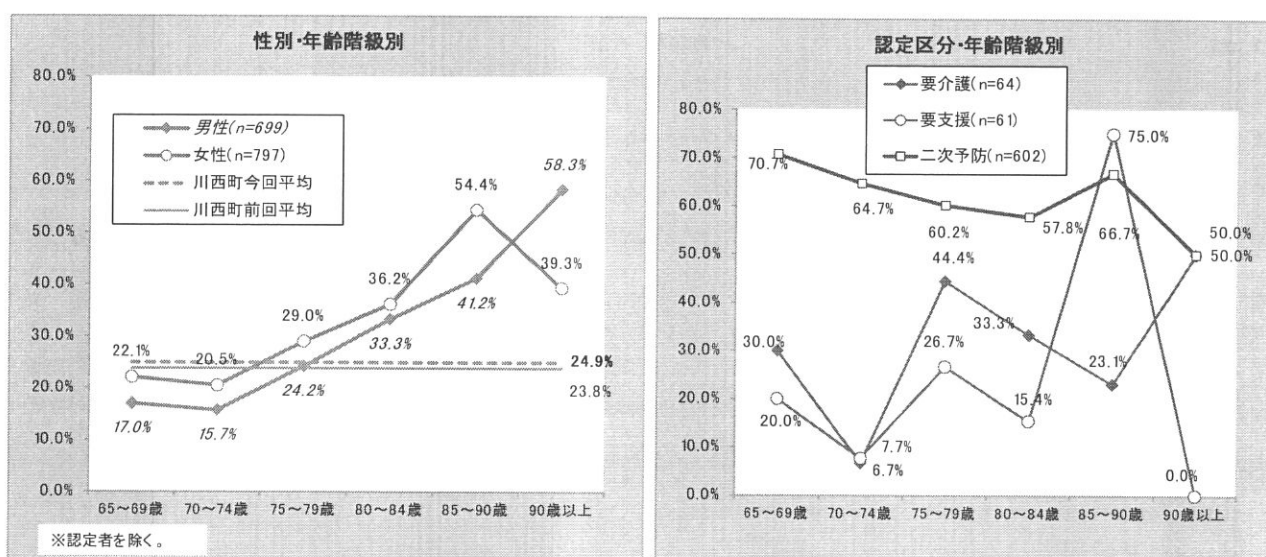
(5) 口腔ケアのリスク

基本チェックリストに基づく口腔に関する評価結果をみると、全体（1,521 人中）で 24.9%（379 人）が「口腔ケアのリスク該当者」となっており、前回調査の 23.8%より 1.1 ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、90 歳以上を除いて、男性より女性のほうが口腔ケアのリスク該当者の割合が高くなっています。また、65～69 歳と 90 歳以上を除いて、年齢が上がるほど口腔ケアのリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者に占める口腔ケアのリスク該当者の割合は 63.0%であり、前回調査の 61.4%より 1.6 ポイント増加しています。

図表 口腔ケアのリスク該当者割合



評価方法

下記の 3 項目について、2 項目以上該当する場合、「口腔ケアのリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 4-問 3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（該当：はい）
設問 4-問 4	お茶や汁物等でむせることがありますか（該当：はい）
設問 4-問 5	口の渇きが気になりますか（該当：はい）

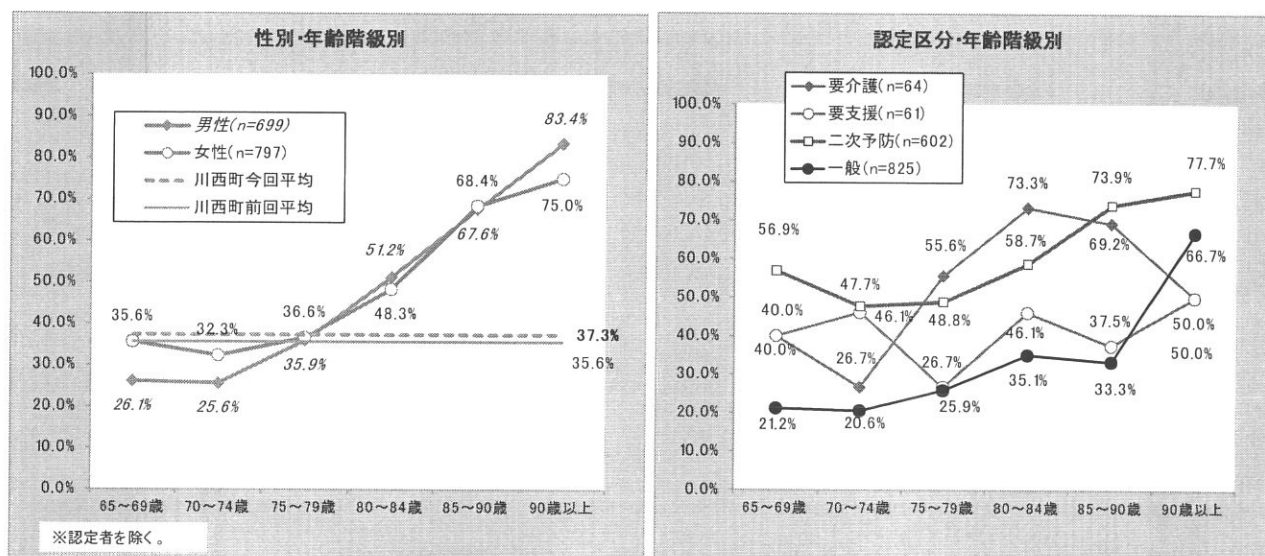
(6) 認知機能低下のリスク

基本チェックリストに基づく認知症に関する評価結果をみると、全体（1,521 人中）で 37.3%（567 人）が「認知機能低下のリスク該当者」となっており、前回調査の 35.6%より 1.7 ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、65～69 歳を除いて、年齢が上がるほど認知機能低下のリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者と一般高齢者では、おおむね年齢が上がるほど認知機能低下のリスク該当者の割合が高くなっています。

図表 認知機能低下のリスク該当者割合



評価方法

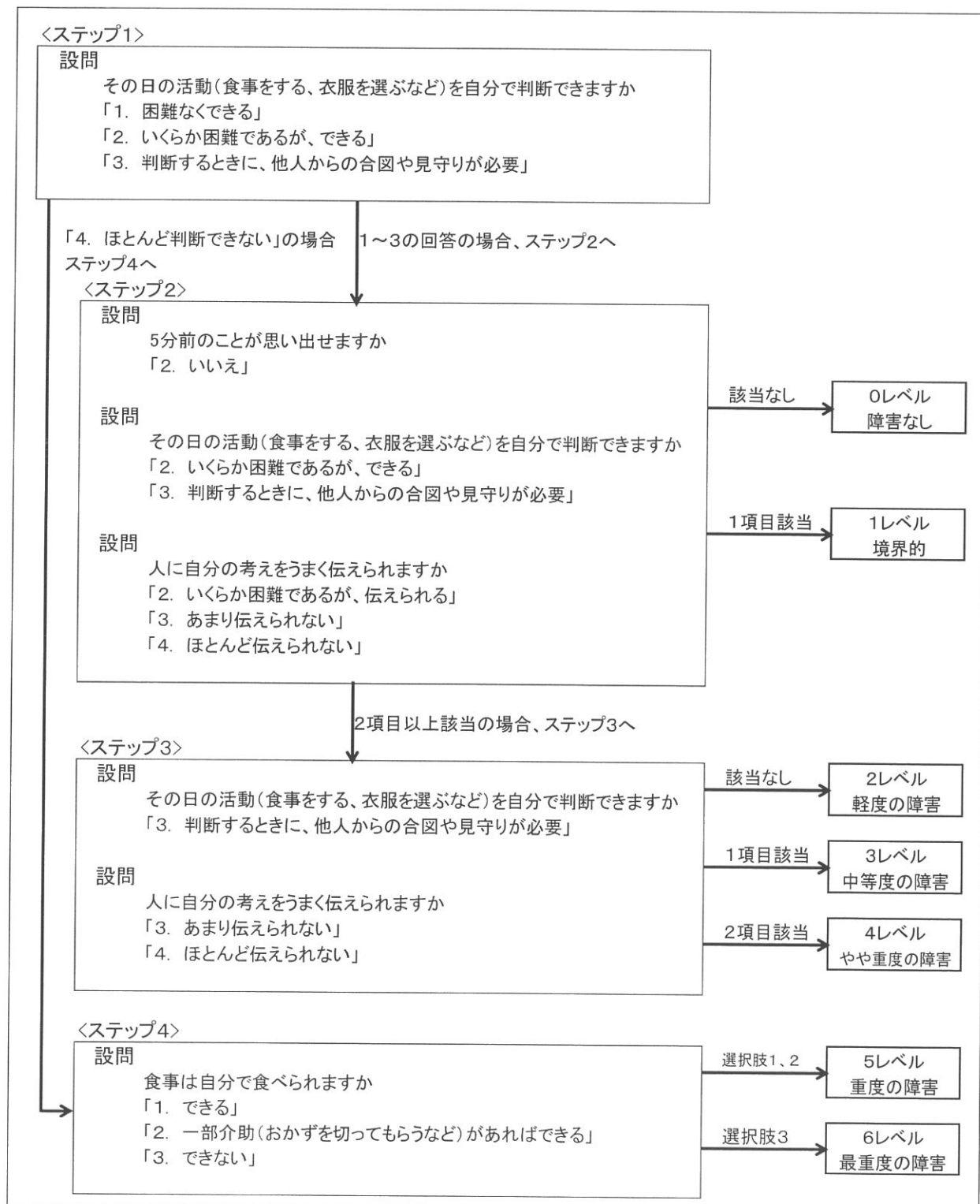
下記の 3 項目について、1 項目以上該当する場合、「認知機能低下のリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 5-問 1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか（該当：はい）
設問 5-問 2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（該当：いいえ）
設問 5-問 3	今日が何月何日かわからない時がありますか（該当：はい）

(7) 認知機能障害程度 (CPS)

本調査には認知機能の障害程度の指標として有用とされる CPS (Cognitive Performance Scale) に準じた設問が含まれています。これは要介護認定調査の主治医意見書欄にある内容です。本来は観察者による評価がされることにより客観的な指標となりますが、今回は自記式の調査であるものの、比較的簡易に認知機能の障害程度の評価が可能で、回答内容により 0 レベル (障害なし) から 6 レベル (最重度の障害がある) までの評価が可能となっています。

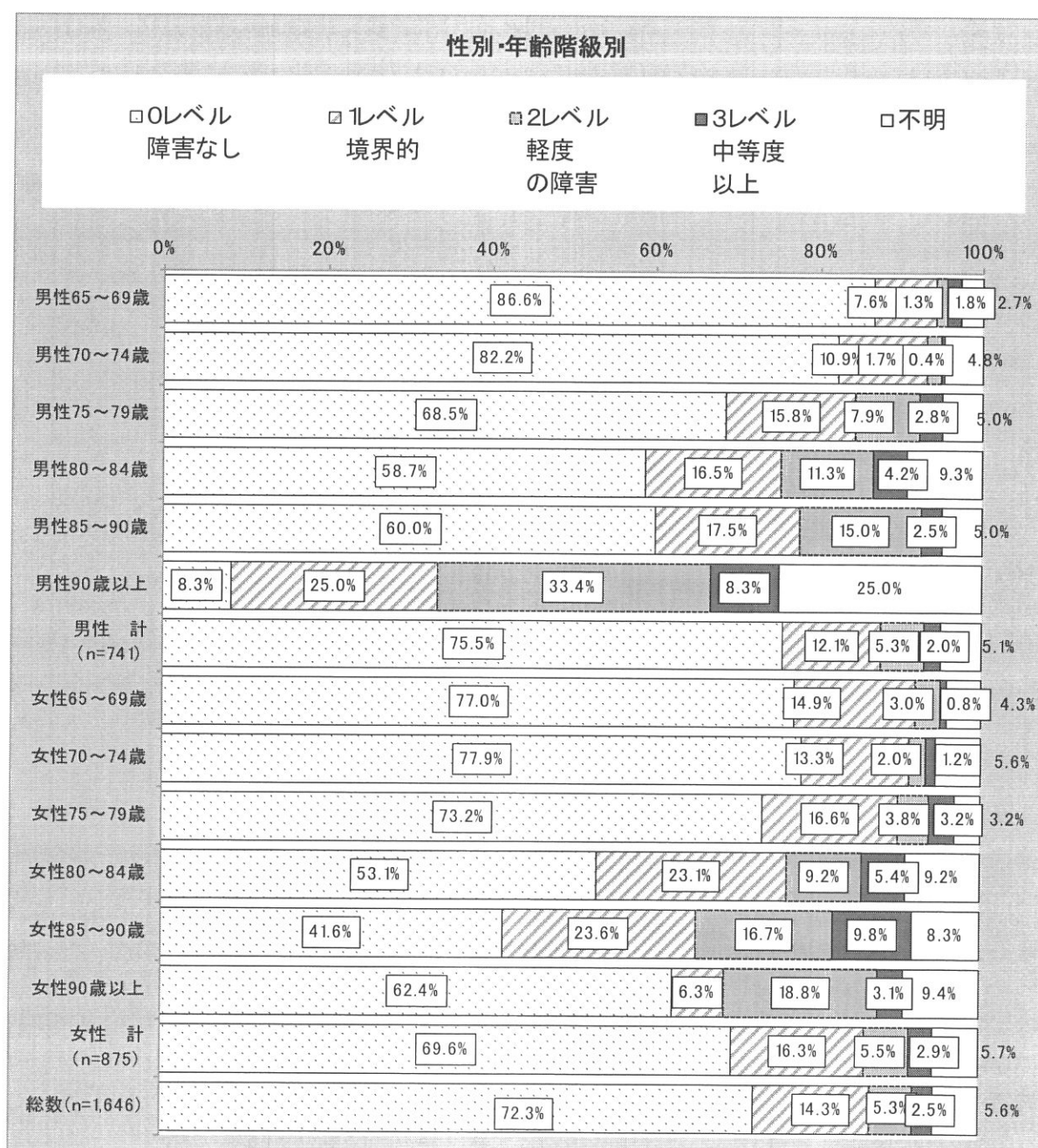
【認知機能障害程度区分の評価方法】



評価結果をみると、1レベル以上の障害程度と評価される「認知機能障害程度リスク該当者」の割合は、全体（1,646人中）で22.2%（365人）となっており、前回調査の22.8%より0.6ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、男性は19.4%、女性は24.7%で、女性のほうが認知機能障害程度のリスク該当者の割合が高い結果となっています。

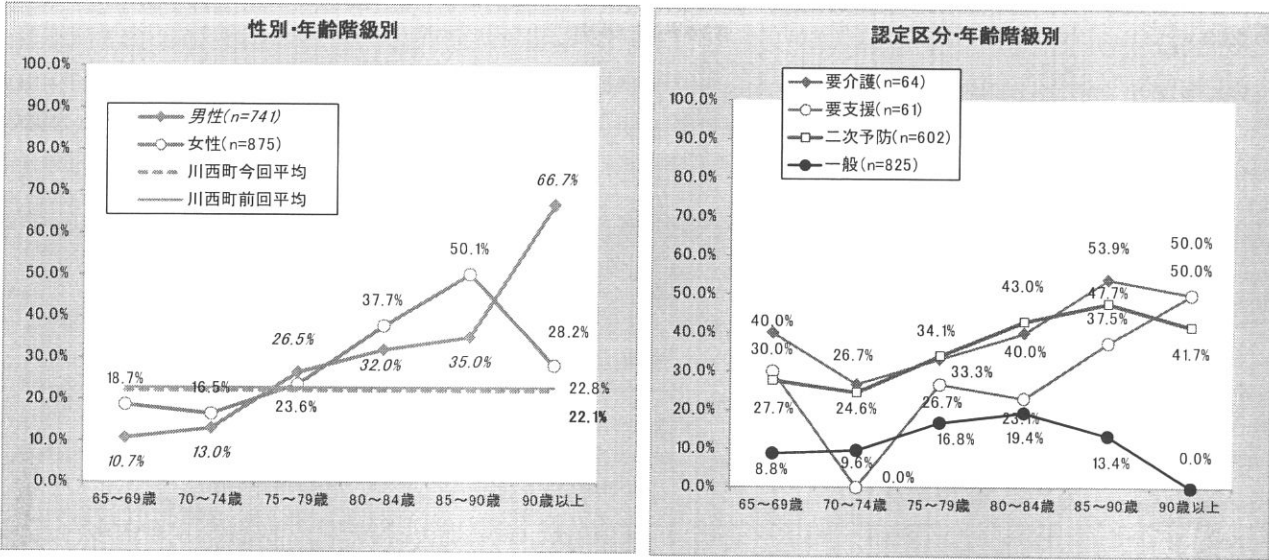
図表 障害程度区分別割合（性別・年齢階級別）



1レベル以上の障害程度と評価される「認知機能障害程度リスク該当者」の割合だけをグラフにしてみると次のとおりで、性別・年齢階級別にみると、65～69歳と90歳以上を除いて、年齢が上がるほど認知機能障害程度リスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者に占める認知機能障害程度リスク該当者の割合は、要介護者に近い状況となっています。

図表 認知機能障害程度リスク該当者割合



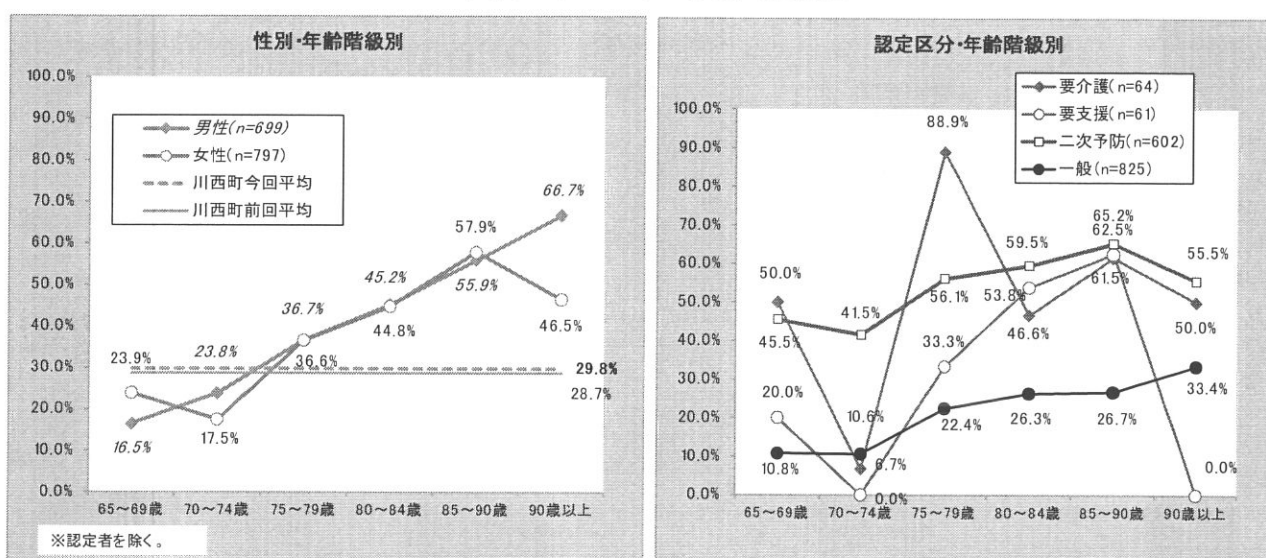
(8) うつのリスク

基本チェックリストに基づくうつのリスク該当状況をみると、全体（1,521 人中）で 29.8%（453 人）が「うつのリスク該当者」となっており、前回調査の 28.7%より 1.1 ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、65～69 歳と 90 歳以上を除いて、年齢が上がるほどうつのリスク該当者の割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者と一般高齢者では、おおむね年齢が上がるほどうつのリスク該当者の割合が高くなっています。

図表 うつのリスク該当者割合



評価方法

下記の 5 項目について、2 項目以上該当する場合、「うつのリスク該当者」として判定しました。

設問番号	設問
設問 8-問 9	(ここ 2 週間) 毎日の生活に充実感がない (該当：はい)
設問 8-問 10	(ここ 2 週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった (該当：はい)
設問 8-問 11	(ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる (該当：はい)
設問 8-問 12	(ここ 2 週間) 自分が役に立つ人間だと思えない (該当：はい)
設問 8-問 13	(ここ 2 週間) わけもなく疲れたような感じがする (該当：はい)

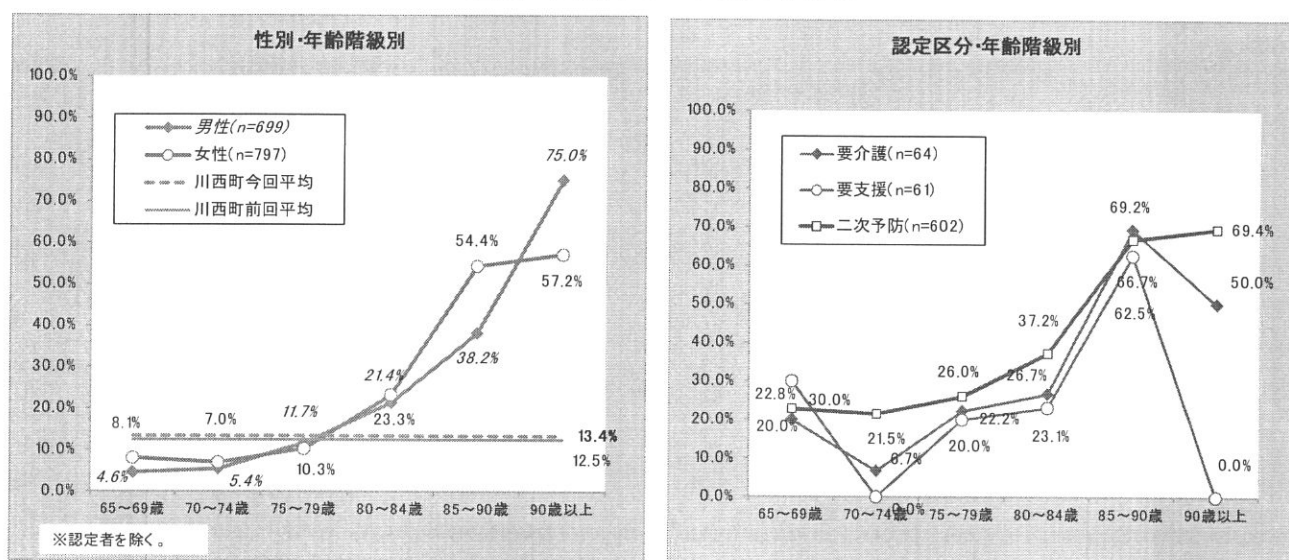
(9) 虚弱のリスク

基本チェックリストで、うつに関する5項目を除いた20項目中、10項目以上が該当した場合、虚弱に該当します。全体(1,521人中)で13.4%(204人)が「虚弱のリスク該当者」となっており、前回調査の12.5%より0.9ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、65～69歳を除いて、年齢が上がるほど虚弱のリスク該当者割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者では、おおむね年齢が上がるほど虚弱のリスク該当者割合が高くなっています。

図表 虚弱のリスク該当者割合



評価方法

「(1)運動器」「(2)閉じこもり」「(4)栄養」「(5)口腔」「(6)認知症」に関する設問14項目と下記の6項目を合わせた20項目について、10項目以上該当を「虚弱のリスク該当者」として判定しました。

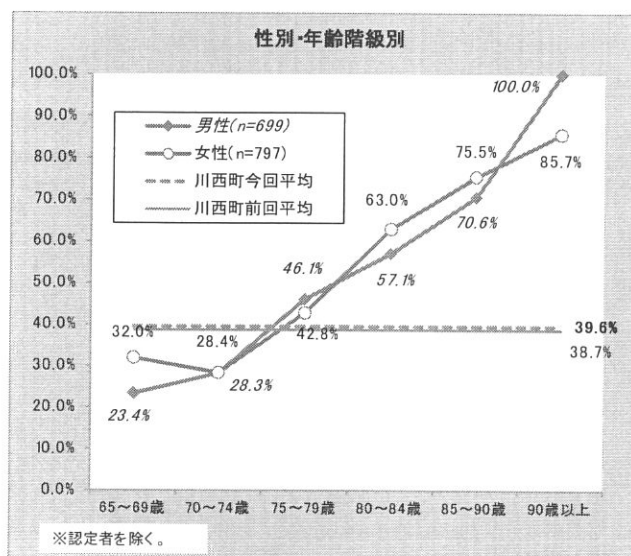
設問番号	設問
設問2-問6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか(該当:はい)
設問6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可) (該当:できるけどしていない、又はできない)
設問6-問2	日用品の買物をしていますか(該当:できるけどしていない、又はできない)
設問6-問5	預貯金の出し入れをしていますか(該当:できるけどしていない、又はできない)
設問7-問5	友人の家を訪ねていますか(該当:いいえ)
設問7-問6	家族や友人の相談にのっていますか(該当:いいえ)

(10) 二次予防事業対象者

二次予防事業対象者については、運動、口腔など複数の評価項目で重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者割合を求めました。全体（1,521 人中）で 39.6%（602 人）が「二次予防事業対象者」となっており、前回調査の 38.7%より 0.9 ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、65～69 歳を除いて、年齢が上がるほど二次予防事業対象者割合が高くなる傾向があり、80 歳以上では 5 割以上を占めています。

図表 二次予防事業対象者割合



評価方法

「(1)運動器」「(4)栄養」「(5)口腔」「(8)虚弱」のいずれかで「リスク該当者」である場合、「二次予防事業対象者」として判定しています。

2. 生活機能

本調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられており、次のとおりの方法で評価を行います。評価方法は項目ごとに記載しています。

① 手段的自立度(IADL)

問番号	設問	選択肢
設問6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「1.できるし、している」または「2.できるけどしていない」 1点
設問6-問2	日用品の買物をしていますか	
設問6-問3	自分で食事の用意をしていますか	
設問6-問4	請求書の支払いをしていますか	
設問6-問5	預貯金の出し入れをしていますか	

- 5点: 高い
- 4点: やや低い
- 0～3点: 低い

② 知的能動性

問番号	設問	選択肢
設問7-問1	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1.はい」: 1点
設問7-問2	新聞を読んでいますか	
設問7-問3	本や雑誌を読んでいますか	
設問7-問4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

- 4点: 高い
- 3点: やや低い
- 0～2点: 低い

③ 社会的役割

問番号	設問	選択肢
設問7-問5	友人の家を訪ねていますか	「1.はい」: 1点
設問7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	
設問7-問7	病人を見舞うことができますか	
設問7-問8	若い人に自分から話しかけることがありますか	

- 4点: 高い
- 3点: やや低い
- 0～2点: 低い

④ 老研指標総合評価(IADL、知的能動性、社会的役割の合計点)

- 11点以上: 高い
- 9～10点: やや低い
- 8点以下: 低い

(1) 手段的自立度 (IADL)

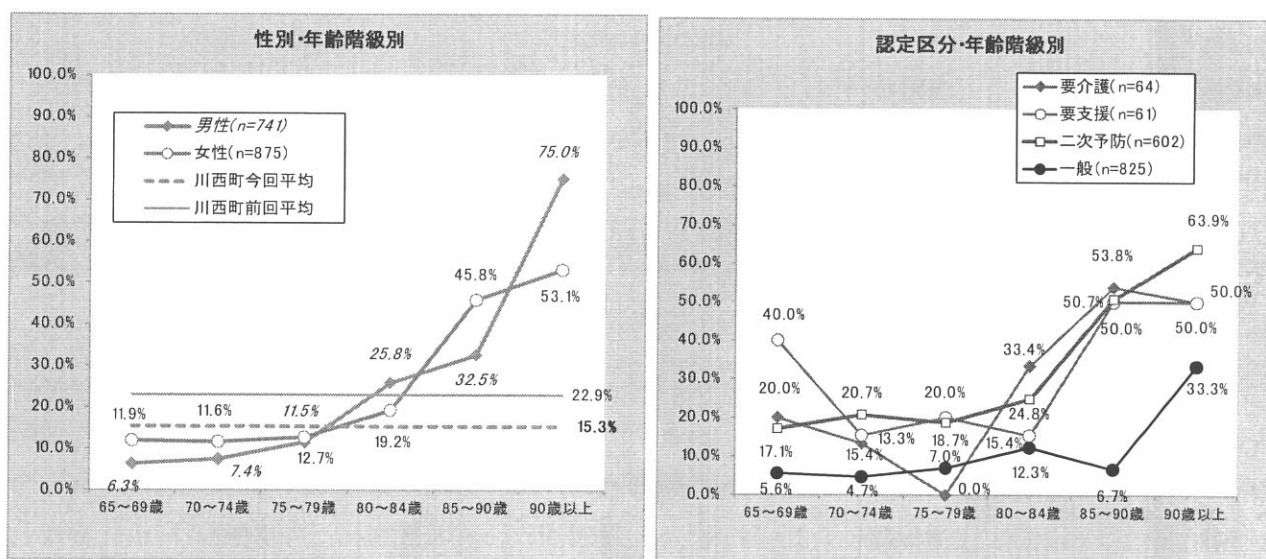
手段的自立度 (IADL) に関する5項目については、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

4点以下を「IADLの低下者」とした評価結果をみると、全体(1,646人中)で15.3%(253人)が「IADLの低下者」となっており、前回調査の22.9%より7.6ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、女性の65～69歳を除いて、年齢が上がるほどIADLの低下者割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者や一般高齢者では、おおむね年齢が上がるほどIADLの低下者割合が高くなっています。

図表 IADL の低下者割合



評価方法

下記の5項目について、1項目以上「できない」と回答した場合、「IADLの低下者」として判定しました。

問番号	設問	選択肢
設問6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「1.できるし、している」または「2.できるけどしていない」 1点
設問6-問2	日用品の買物をしていますか	
設問6-問3	自分で食事の用意をしていますか	
設問6-問4	請求書の支払いをしていますか	
設問6-問5	預貯金のお出し入れをしていますか	

(2) 知的能動性

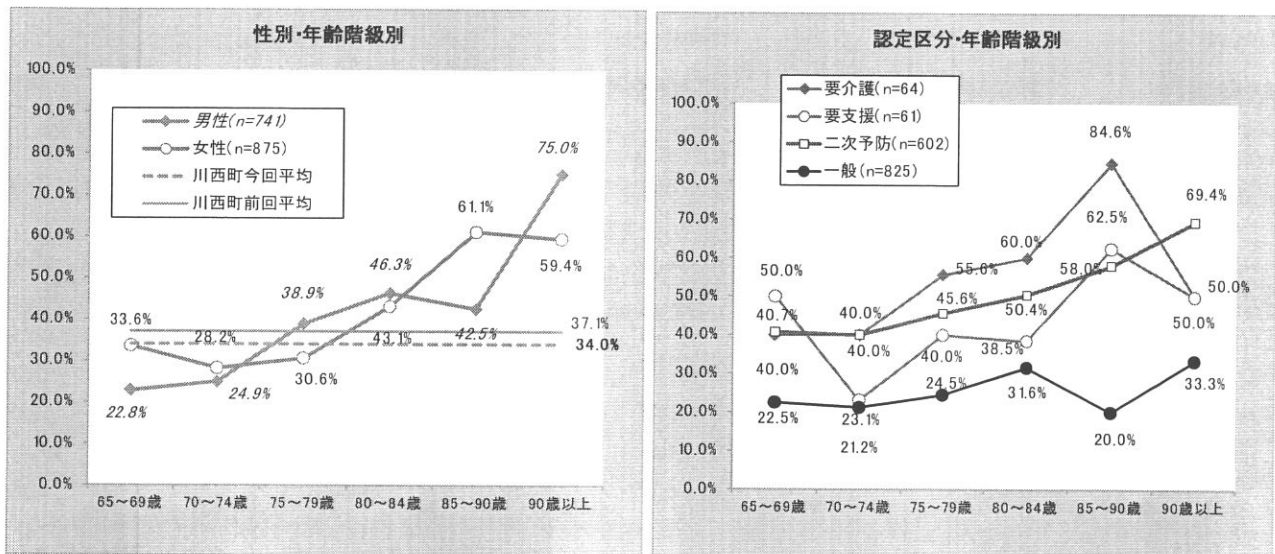
本調査では、高齢者の知的活動に関する設問として老研式活動能力指標の4項目が設けられており、これは「知的能動性」として尺度化されています。

下記の4項目のうち1項目以上「いいえ」と回答した者を「知的能動性の低下者」とした評価結果をみると、全体（1,646人中）で34.0%（560人）が「知的能動性の低下者」となっており、前回調査の37.1%より3.1ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、おおむね年齢が上がるほど知的能動性の低下者割合が高くなっています。

認定区分・年齢階級別にみると、二次予防事業対象者では、おおむね年齢が上がるほど知的能動性の低下者割合が高くなっています。

図表 知的能動性の低下者割合



評価方法

下記の4項目について、1項目以上「いいえ」と回答した場合、「知的能動性の低下者」として判定しました。

問番号	設問	選択肢
設問7-問1	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1.はい」：1点
設問7-問2	新聞を読んでいますか	
設問7-問3	本や雑誌を読んでいますか	
設問7-問4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

(3) 社会的役割

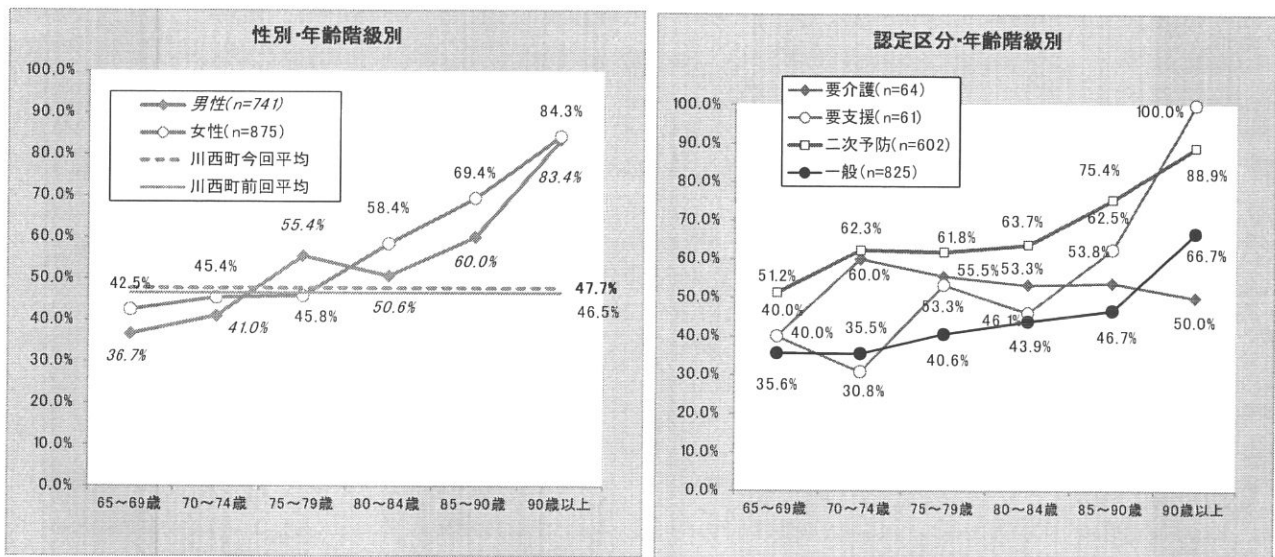
本調査では、高齢者の社会活動に関する設問として老研式活動能力指標の4項目が設けられており、これは「社会的役割」として尺度化されています。

下記の4項目のうち1項目以上「いいえ」と回答した者を「社会的役割の低下者」とした評価結果をみると、全体（1,646人中）で47.7%（785人）が「社会的役割の低下者」となっており、前回調査の46.5%より1.2ポイント増加しています。

性別・年齢階級別にみると、おおむね年齢が上がるほど社会的役割の低下者割合が高くなる傾向があります。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者や一般高齢者では、おおむね年齢が上がるほど社会的役割の低下者割合が高くなっています。

図表 社会的役割の低下者割合



評価方法

下記の4項目について、1項目以上「いいえ」と回答した場合、「社会的役割の低下者」として判定しました。

問番号	設問	選択肢
設問7-問5	友人の家を訪ねていますか	「1.はい」：1点
設問7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	
設問7-問7	病人を見舞うことができますか	
設問7-問8	若い人に自分から話しかけることがありますか	

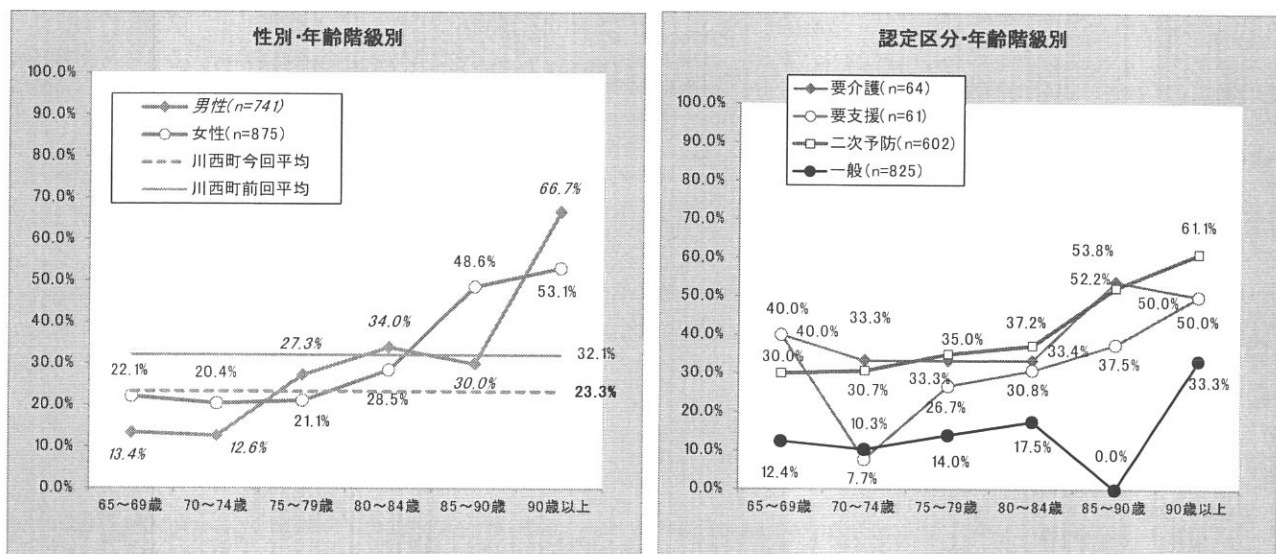
(4) 老研式指標総合評価（生活機能総合評価）

手段的自立度（IADL）に、知的能動性、社会的役割を加えた老研式指標13項目での評価として、13点満点のうち10点以下を「生活機能の低下者」とした評価結果をみると、全体（1,646人中）で23.3%（383人）が「生活機能の低下者」となっており、前回調査の32.1%より8.8ポイント減少しています。

性別・年齢階級別にみると、おおむね年齢が上がるほど生活機能の低下者割合が高くなる傾向があります。

認定区分・年齢階級別にみると、要支援・要介護者では該当者が少ないため、割合にすると比較がむずかしい状況ですが、二次予防事業対象者では、おおむね年齢が上がるほど生活機能の低下者割合が高くなっています。

図表 生活機能の低下者割合



評価方法

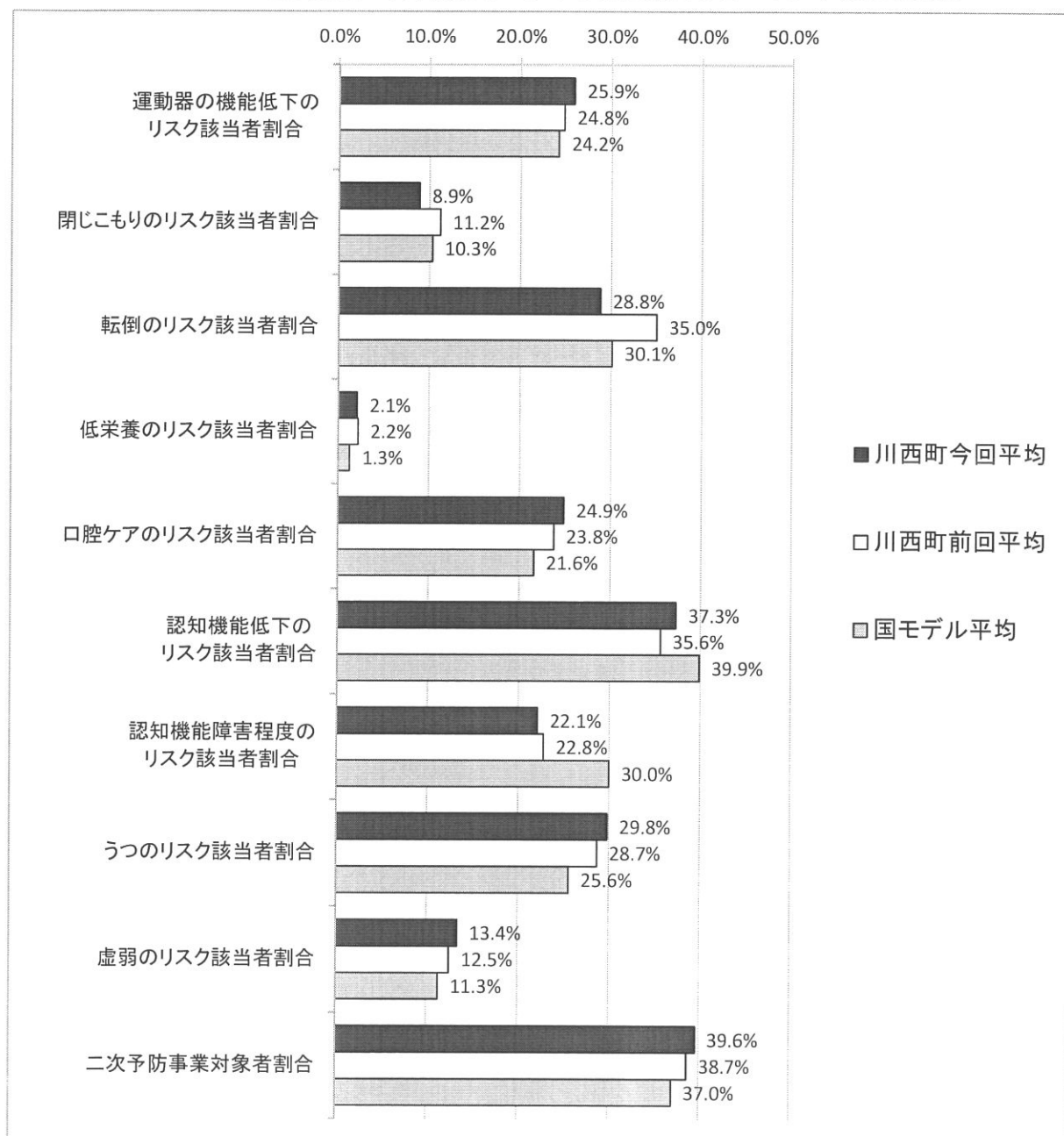
手段的自立度（IADL）に、知的能動性、社会的役割を加えた老研式指標13項目による老研式指標総合評価は、13点満点中11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しました。

3. 前回調査や全国平均との比較

以上のようにみてきた前回調査との比較のほか、全国平均との比較をまとめてみます。(厚生労働省では平成22年5月から8月にかけて全国57保険者、高齢者35,910人を対象にして、日常生活圏域ニーズ調査を実施しています。)

運動器機能、身体機能等において、前回調査より改善傾向がみられたのは、閉じこもりリスク、転倒リスクです。その他については前回とほぼ変わらない状況であり、今後も更なる介護予防の取組が望まれます。

図表 運動器機能、身体機能等における前回調査や国モデル事業との比較



また、生活機能において、前回調査より改善傾向がみられたのは、手段的自立度（IADL）、知的能動性、生活機能総合評価です。一方、前回調査より悪化傾向がみられたは、社会的役割であり、更なる対策が望めます。

図表 生活機能における前回調査や国モデル事業との比較

